

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800610		
法人名	有限会社 桜の里		
事業所名	グループホーム桜の里		
所在地	三重県度会郡玉城町矢野139-3		
自己評価作成日	平成23年12月24日	評価結果市町提出日	平成 24年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800610&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800610&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成24年1月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月から2ユニットになり、これからも地域の一員として認知症介護のあり方を発信し続け、グループホームの役割をはたしていきたいと思っております。事業所の理念である「あ・き・ら・め・な・い」を基本に全職員が入居者様の生活歴や、今、何を望んでいるかを理解し一丸となって取り組んでいます。  
近所に保育所や小学校があり、当施設が保育園児の散歩コースになっており環境も良く、入居者様が安心して笑顔で暮らしていけるよう職員、入居者様、家族、地域の方々、共に支えています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然溢れる環境に建てられた事業所は、穏やかで親しみやすく、昨年新たに1ユニット新設され、それぞれが異なる雰囲気有している。ログハウス風の設計と、檜を中心とした木材による内装の居室がある「里」は、天井が高く、開放的な雰囲気である。新設された「みなみ」は、陽当たりがよく明るい雰囲気を持ち、入居者は居間で心地よさそうに寛いでいる。管理者は、地域に根差した温かみのある事業所としての運営に力を注いでおり、親しみやすく明るい職員に囲まれながら、毎日を穏やかに過ごす入居者の笑顔が印象的である。また、入居者、家族、職員が一体となるよう、日々の言葉かけと運営に心がけている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である、 <b>あきらめない</b> 「愛・希望・楽・なごみ・いつも笑顔」を基本に、入居者様と共に学び、協力しあって地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう実践している。	「愛・希望・楽・めざめ・なごみ・いつも笑顔」の頭文字から、「あきらめない」と標語形による親しみやすい理念を創作し、会議等で折に触れて確認し合う事で日々のケアに反映する様努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設のお祭りに地域の方に参加していただいたり、町内のお祭りに参加し地域の方との交流を深めている。また散歩や買物により近所の方や小学生・保育園児と日常的に会話や挨拶をしている。	事業所の“さつき祭”には、地域から大勢の参加があり、また近くの神社の祭に入居者が積極的に参加、地域の草刈りに職員が参加する等、相互交流の充実に努めている。また、併設のデイサービス利用者とは良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方やボランティアさんに当施設のお祭りやイベント等に参加していただき、入居者さんとふれあい、理解を深めていただいている。また、福祉専門学校実習生やヘルパー実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告や意見交換を行ったり、前回取りあげられた課題についての経過報告を行っている。またご家族様の参加も増えており、お互い理解が深まってきたように思われる。	奇数月に開催しており、事業報告を中心に、時事的な議題を提案、検討している。家族には開催日を早目に連絡する事で、多数の参加を実現しており、意見の吸い上げや良好な関係構築に寄与している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町の介護相談員や地域包括支援センター職員に参加していただき情報交換に努めている。また地域包括支援センターへは、事業所での困り事などを相談し良きアドバイスをいただいたり、勉強会を開いていただいたりし協力関係を築いている。	運営推進会議には、町の介護相談員が出席しており、また町仲介による介護保険の勉強会や町立病院の医師による勉強会が開催される等、積極的な協働がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングや定例会議、勉強会などで、都度話し合い職員全員が理解に努め尊厳あるケアの実践に取り組んでいる。またご家族様にも身体拘束をしないケアの重要性を説明し理解していただいている。	拘束はしない・カギはかけない姿勢を貫いており、家族からベッド柵の希望があった際には、職員や家族との協議や勉強会を重ね、試行錯誤の上廃止に成功する等、入居者の尊厳を損なわないケアに重点を置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内勉強会の開催により全職員が学び理解する機会を設けている。また虐待かどうかその都度、全職員で検討し解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会議など通じ機会があるごとに学ぶ機会を設けている。また個々の必要性に応じご家族と話し合いを持ったり、関係機関に相談したりし活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書・契約書等をすべて読み丁寧に説明し理解と同意を得ている。また契約時に限らず、疑問や不安が出てきた場合は気軽に相談していただけるよう、お声かけし、都度解決している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は入居者様や、ご家族様来所時には会話の機会を多く持ち意見要望を言いやすい関係づくりに努めている。また苦情相談窓口を明示し受け付けた苦情や相談事は検討の結果をご家族に報告している。	面会時での報告の他、運営推進会議には全家族に出席を案内する等、意見や要望の吸い上げに積極的な環境を整えている。関連文書の字体を大きくするとともに、出された意見は迅速に反映し、運営の改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを多く取り意見・要望を言いやすい関係づくりに努めている。また定例会議や勉強会などでも意見等を聞き反映させ質の向上に努めている。	日頃から職員間の円滑な人間関係を構築するようにしている。毎月のカンファレンスや勉強会では活発な意見の交換がなされている。また個別に面談する機会も多く、漏れのない意見の集約に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が頻繁に現場へ足を運び、各職員の業務状況や悩みを把握している。また各種資格取得の自己啓発を促し、資格取得後は職場で活かせる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が熟練度と研修のテーマに応じて県や町、地域密着型サービス協議会主催の外部研修に参加できるよう勤務予定に組み入れ、勉強会で全員に報告し、全職員、報告書の閲覧を徹底している。また代表者は各資格取得の自己啓発を促し支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会の研修会や、玉城町福祉まつりや、玉城町福祉課や包括支援センター主催の研修・勉強会・食事会などに参加し交流する機会を設けサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況を聞き取り、ご本人が安心して入居できるように、ご家族、ご本人と十分に話し合い、不安に感じている点に耳を傾け話し合い馴染めるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や現在不安に思っておられる事・要望等をゆっくり聞き理解をし、これまで介護に労いの言葉をかけ、これから共に入居者様を支えていけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人やご家族の思いや希望、生活・経済状況なども含めて話し合い、今一番何を必要としているかを見極め信頼関係を築きながら、必要なサービスを支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊厳の気持ちを持ち、入居者様がこれまで大切にしてきた生活を共に大切にし、漢字の読み方・家事などを得意な方から教えてもらい、日々、喜怒哀楽を共有し常に感謝の気持ちを忘れず、共に意見を出せる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来所時や電話などで常に本人の様子を伝えたり相談したりし、必要な時にはご協力していただき、ご家族・主治医・職員全員で入居者様を支えている。常に密に連絡をし信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで本人が利用してきた、近所のスーパーにでかけたり、散歩やドライブなどで、思い出ある町を散策したりして、近所の方と会話をしたりし、これまでの関係が途切れないようにしている。また子供の頃住んでいた場所の写真などを見てもらったりしている。	家族の他、友人知人等、慣れ親しんだ方々が訪れやすい雰囲気が構築されており、頻繁な訪問が見てとれる。近隣の保育園児や隣接するデイサービス利用者とも、毎日のように交流があり、良好な関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係や性格について、全職員が把握し情報を共有し、関係がうまくいくよう職員が間に入ったり、見守ったりしながら円滑にいくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院へ入院された方も、こちらから伺ったりし時には相談に応じている。またお亡くなりになられた際もお悔やみに何うと共に労いの言葉をかけている。退居された入居者様のご家族様が入居者様や職員に会いにきて下さったり、当施設のお祭りに来ていただいたりし継続的な付き合いをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、できるだけ本人に寄り添い何を望んでいるか、何に困っているかを把握し、意志の疎通が困難な方でも表情や行動などから読み取る努力をし、1人ひとりの意向の把握に努めている。	新入居者のことは家族に聞いたり、全職員が分りやすく、アセスメントしやすい形に適用した用紙を活用する等、より深い意向の把握に努めている。また担当制を採用し、1日を通して入居者が意向を表しやすいよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時自宅へ訪問し、本人・ご家族などから、これまでの生活歴、大切にしている事等をお聞きし、サービス利用に至った経緯を把握している。また利用後も同様に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりとしっかり向き合い、できる事、わかる事を日々の暮らしの中で見つけ、生活のリズムや生活全般、本人が困っておられる事などを把握し解決するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からは日頃の関わりの中から意見を聞き、主治医・職員のアセスメント・モニタリング意見交換をもとに全員で課題を見つけ出し介護計画を作成している。また3ヶ月に1回の見直しを行っているが、状況に即した介護計画の見直し・変更を行っている。	日々の細かな気づきは、担当が介護記録に記載し、情報を全職員で共有している。3ヶ月毎に計画の評価及び見直しを、全職員参加の会議で協議し、家族の意見も取り入れ、より適切な支援を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子を介護記録や身体チェック表に記入し、体調の変化や、小さな気づき又は職員が実践した事を具体的に記録している。また介護計画の見直しにも活用している。記録物は全職員、確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、要望に応じて、買物・通院やお墓参りなどを行っている、1人ひとりの趣味やニーズに合わせ食事形態の変更や、配膳準備・洗濯干し・洗濯たたみなど1人ひとりの力を活かし役割を持っていただけるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の小学生と一緒に花壇の花植えをしたり、ボランティアさんの協力を得て催しの開催をしている。また避難訓練に玉城町消防団や駐在所の警察官に協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医での受診を受けられるよう、ご家族と協力し医療機関と情報交換しながら適切な医療を受けられるよう支援している。また事業所のかかりつけ医とも連携し急変時には臨時往診や指示を受けている。	ほとんどの入居者が協力医による月2回の往診や毎週の訪問看護を利用し、細やかな健康状態の把握がされている。年に一度協力医による研修会が職員対象に開催され、医療に関する専門的知識の獲得にも積極的である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医である神戸クリニックの看護師や職場の看護師とも、どのような場合でも相談できる関係が構築されており、1人ひとりの健康状態や気づいた事を把握し密に報告し、主治医や家族との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は情報を提供し、職員がお見舞いに伺った際は、ご家族や医師から情報をいただき、話し合い、できるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在も終末期の入居者様がおられ、ターミナル介護をしている最中である。主治医の訪問診療・訪問看護も行われている中で状態の変化があるごとに主治医・職員・家族で話し合い、本人、家族の思いを留意し、事業所ができる最大限の支援を提供するよう努め、家族と共に支えていっている。看取りに関する同意書を作成し十分に説明をしている。	これまでに6名の看取りを体験した。契約時や必要に応じた時期に重度化や看取りについて家族と話し合いを重ね、在宅医療に造詣の深い協力医との綿密な連携の下、看取りに取り組んできた。職員は生きることへの感謝の念と責任感を持ち、最大限の支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルや事故発生防止マニュアルを設け全職員、再確認し周知徹底している。また定期的に施設内勉強会で、緊急時の対応を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練に加え、夜間の避難訓練を、玉城町消防団・町の防災課・駐在所の警察官に参加していただき行った。職員の意識向上、不安解消の為、事あるごとに初期動作の確認や役割分担の確認を行うようにしている。またスプリンクラーを設置した。備蓄品の補充も進めていっている。	年に二度の防災訓練の他、夜間想定訓練や救命救急講習の受講等、昨年より充実した内容の対策がなされている。また、隔月開催される地域の防災会議では、津波時の対策等具体的事案について協議がなされている。	災害はいつどんな時にでも起こり得る事を念頭に、職員には毎日の役割を常に意識付けする事が望まれる。今後とも継続した救命救急講習受講や訓練の実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者1人ひとりを尊重し、穏やかでゆっくりとした話しかけをするよう注意している。居室に入る場合は必ずノックして訪室し、プライバシーの確保にも注意している。	職員は、入居者の尊厳を損ねる事のないケアに重点を置いており、一人ひとりの個性を尊重しながら日々寄り添い、支援している。面会簿は1枚式を採用し、個人情報の保護にも徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と過ごす日々の生活の中で、意志疎通が困難な方には、表情を汲み取ったり、複数の選択肢を提案したりし、1人ひとりの希望に添った個別の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、職員側の決まりを優先するのではなく、その日その日の本人の気持ち、体調を尊重し、入浴や買物など入居者さんの希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人や、ご家族に好みを聞いて好きな服を着ていただいている。自己決定が難しい方は、職員と一緒に選んでいる。また不十分なところは職員がさりげなく介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けを入居者と一緒に行っている。また職員も同じテーブルで同じ物を食べる味などについて話をしながら穏やかな雰囲気ですべてしている。	和やかな雰囲気の中、併設デイサービスの調理師の作る食事を職員を含む全員が楽しんでいる。また、週に2日程自炊日を設け、入居者に好評を得ているメニューを取り入れる等の試みもなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時、おやつ時以外でも、水分補給に心がけている。併設のデイサービスの調理師、カロリーを一日1800キロカロリーを目安としバランスの摂れた食事を考えている。個人チェック表に食事量、水分量を記録している。定期的に医師にも報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの重要性を全職員理解し、ご自身でうがい、歯磨きしていただいている。難しい方には職員によりケアさせていただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員にチェック表を作成してあるので、排泄パターンを職員は把握している。時間、行動からも排泄パターンをキャッチしトイレでの排泄の支援をしている。	入居者の多くは自立しているが、誘導等が必要な方については、排泄パターンを把握し、その人に合った支援をしていく事で、便秘の解消等健康面での支援にも繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む物を摂取したり健康体操、散歩など自然排便ができる様に取り組んでいる。主治医とも常に連携を取り便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きな時間に入浴できるような体制をとっている、その時の希望や体調を伺いながら、1人ひとりに添った入浴をしていただいている。シャワーチェアも用意しており体の不自由な方でも入浴していただけるよう支援している。	毎日沸かし、交代で日に5～6人が入浴する。入浴を拒む入居者にも誘導を工夫して入浴を支援する等、適切な清潔保持に努めている。また時には入浴剤を使用したり、入浴後は保湿剤を塗布する等の工夫を凝らしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、安眠できる様支援しているが、疲労度を勘案し無理のない生活や適度な休息の声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、薬の作用、副作用、用量を理解し、症状の確認に努めている。間違いのないよう、ケースを色分けし写真を貼り、1人ひとり管理している。体調の変化があった場合は主治医との連携を密にし、いつもよりも詳細な記録をとるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの楽しみを入居後も継続していただいている。毎日のゴミ出し、洗濯たたみ、洗濯干し、配膳下膳、字を書く、新聞を読むなど得意分野での役割を発揮していただけるよう支援し、職員は感謝の気持ちを忘れず声かけしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、散歩だけでなく行楽、畑仕事、喫茶店、日光浴などできるように支援している。また季節毎の外出も支援している。ご家族様とも散歩やドライブ、墓参りに出かけたたりされている。	個々の健康状態や天候を考慮し、頻繁に近辺の散歩や買い物に出かけている。年に一度の遠足は入居者の最も楽しみとする行事となっている。また、バーベキューや流し素麺等のイベントを多々企画し、野外での楽しみを多く持つ機会を設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで管理しているが、家族了解のもと少額のお金を持っておられる方もあり買物の際はご自分で払っていただいている。またホームが管理している方も買物をご自分で払っていただけよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じていつでも気兼ねなく電話をかけたりできるよう支援している。また会話が他の入居者に聞こえないように話ができるコードレスの電話機にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が木で出来ており、木の温かみを感じられる空間であり広い窓からは田園風景が見渡せ、壁の掲示物は少なく落ち着いた雰囲気である。室温計、湿度計を用いて室温管理をしている。	大きなソファや広い畳スペースは、入居者がいつでも寛ぐ事ができる空間になっており、のどかでゆったりとした時間の流れを感じる事が出来る。華美にならない適度な飾り付けが、ログハウス風の建物設計と融和し、憩いの場を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファ、玄関には長椅子、出窓にはベンチがあり、1人で過ごせる空間がある。ウッドデッキにはテーブルと椅子があり複数でもくつろげ、思い思いに過ごせる空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れてきたタンス、布団、机、写真、日用品などが持ち込まれ、心の落ち着く自分の居場所ができるよう支援している。	異なる性格を持つ各ユニットであるが、共に室内には収納家具が備え付けられ、すっきりと片付いた印象を与える。持ち込みに制限は無く、これまでの生活スタイルに応じた過ごし方が出来る支援を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況に応じて設備環境に努め、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。また新たな混乱などが生じた場合は早急に職員で話し合い解決している。		